

KEYSTONE

— Grammar-based English Writing —

基本英文から現代英語表現へ

長坂 昇

Gordon Robson

 **SEIBIDO**

は し が き

この頃の学生が「会話はできるが英語が思うように書けない」と嘆いているのをよく聞きます。聞く能力はある程度できていて、相手の言うことが分かるので、その応答もすぐ出ます。しかし要点だけの語句でしか表現しないので、正確な英語でない会話がよく見られます。日常生活の中では、会話は日本語でも、単語や語句だけで、完全な文にしないで話す場合が多いです。一定の状況の中で話す場合、要点だけで十分お互いが理解し合えるからです。ところが英文で正式にレポートを書くとか、遠くの人にメールで改めて知らせる場合、完全な文で書かなければ、相手は理解できません。英語を正しく書くためには基本文型と文法知識が必要です。このテキストはやさしい短文を例示して英文を書く場合の、文法知識や語法をわかりやすく解説して、英文構成力を身につけるようにしてあります。テキストの基本文を理解して、基本的な文法・語法を学べば、正確な英文が書けるようになります。これによって会話でも一層正確さが増すし、英文を読む場合でも語句や構文を深く理解できるようになります。発信型の英語には強力な武器となります。

英文上達の早道は先人の次の名言が今日でも生きています。

英作文 3つの原則

1. Don't be afraid of making mistakes. (間違いをおそれるな)
2. Don't forget 'Practice makes perfect.' (慣れるまで練習する)
3. Make the best use of your dictionary. (辞書の最大限の活用)

学習方法

Writing Viewpoints に書いてある各文法事項をよく読み、その例文を見て、日本語がどうしてこのような英文になるかを理解していきます。次に exercise の問題に入り、問 I は選択問題、問 II、III は補充問題、問 IV は同一の意味の異なる表現形式の文の作り方、問 V は少しまとまった英語を書けるようにする内容です。要は数多く書けば自然に英語が書けるようになっています。英文が書ける秘訣はこのテキストを必ず予習してノートに書き、授業を受けることです。そして「間違いを恐れず、英文をどんどん書き、和英・英和辞書の例文をお手本にして学習する」ことです。表紙にある KEYSTONE はアーチの上の「かなめ石」です。物事の根本、土台の意味があります。このテキストが学生の皆様の英語ライティングの土台になって英語力向上につながることを祈っております。

英文については昭和女子大学大学院教授・教育学博士 Gordon Robson 氏に細かく見て頂きましたので、生きた現代英語になっております。

最後に、本書の作成に当たり終始お世話になりました編集部の菅野英一氏に深く感謝いたします。

2012年 ロンドンオリンピックの夏

編著者

CONTENTS

Chapter 1	Be 動詞：「デアル」と「ガアル」の使い分け	2
Chapter 2	Have 動詞：「モッテイル」が基本の意味	6
Chapter 3	一般動詞：自動詞・他動詞と状態動詞・動作動詞の使い分け	10
Chapter 4	名詞と冠詞：名詞の数・冠詞の使い方	14
Chapter 5	代名詞：人称・不定・指示代名詞の使い方	18
Chapter 6	時制 (1)：現在形と現在進行形 — 「テイル」の状態と動作の使い分け	22
Chapter 7	時制 (2)：過去形と過去進行形 — 「タ」と「テイタ」の使い分け	26
Chapter 8	時制 (3)：単純未来と意志未来 — 「ダロウ」と「ツモリ」の使い分け	30
Chapter 9	時制 (4)：現在完了・過去完了・未来完了 — 時制のちがいの使い分け	34
Chapter 10	疑問詞：WH-Question の使い分け	38
Chapter 11	助動詞 (1)：can, be able to 「デキル」が基本の意味	42

Chapter 12 助動詞 (2) : may, must, need, dare の使い分け	46
Chapter 13 形容詞と副詞 : 形容詞の 2 用法と副詞の 4 用法の使い方	50
Chapter 14 受け身 : 現在・未来・過去・完了形の使い方	54
Chapter 15 比較 : 同等比較・比較級・最上級の使い分け	58
Chapter 16 不定詞 (1) : 文中での名詞・形容詞・副詞の使い分け	62
Chapter 17 不定詞 (2) : 不定詞構文のいろいろ	66
Chapter 18 分詞 : 形容詞と動詞の機能の活かし方	70
Chapter 19 動名詞 : 名詞と動詞の機能の活かし方	74
Chapter 20 接続詞 : 等位接続詞と従位接続詞の使い方	78
Chapter 21 関係詞 (1) : 関係代名詞 who, which, that の使い方	82
Chapter 22 関係詞 (2) : 関係代名詞 what・関係副詞・複合関係詞の使い方	86
Chapter 23 仮定法 : 仮定法過去と仮定法過去完了の使い方	90
Chapter 24 話法 : 直接話法と間接話法の作り方	94
Chapter 25 否定・強意・倒置・省略 : その特殊な使い方	98

1

Be動詞：「デアル」と「ガアル」の使い分け

Writing Viewpoints

Be 動詞は一般に人・物・事柄の関係、状態、性質、存在などを表し、大別して連結動詞・存在動詞・状態動詞の3種類に分かれる。

A 連結動詞の Be：デアル・デス A is B. A = B の関係を表す。

A (主語) は B (補語) である。B は A を補足説明している。

1. He **is** a college student. (彼は大学生である)
2. This **is** the information age. (現代は情報化時代だ)
3. This **is** where I was born. (ここは私が生まれたところです)

ヒント

1. He と a college student がイコールの関係にある。
2. この文では This = This age となり、「この時代」、「今の時代」、「現代」の意味。
ダはデアルのくだけた言い方。
3. = This place is the place where I was born. この This は場所を指して、This place の意味。the place は関係詞 (where) の先行詞であるが省略が普通。This is where... が定型。

B 存在動詞の Be：ガアル・ニアル 人・物・事柄の存在を示す。

1. **There is** an apple on the table. (テーブルの上にリンゴがある)
2. **There are** a lot of passengers in the bus. (バスにはたくさんの乗客がいる)
3. **There is** a great difference between Japanese and English.
(日本語と英語の間にはかなりの相違がある)
4. Washington, D. C. **is** in the East. (ワシントンはアメリカの東部にある)

ヒント

「ガアル」は There is + 単数主語、There are + 複数主語が定型。文頭の there は人・物・事柄の存在を示す語で、主語は be 動詞の後にくる。there is 構文には一般に場所・空間を表す副詞 (句・節) がある。各文の on the table, in the bus, between Japanese and English, in the East が場所・空間の副詞句である。

1. 主語 (an apple) が単数なので is となる。
2. a lot of + 複数名詞 (passengers) が主語。人の存在は イル となる。
3. 抽象名詞 difference が主語なので単数。Japanese, English は「日本語、英語」の意味で、無冠詞の名詞。

4. Washington, D.C. が主語であるが、この is は東部の中に「ある」の意味で、存在を表すことになる。このように Be 動詞は there is 構文でなくてもアルの意味になる。

C 状態動詞の Be : デアル・デス

人・物・事柄の状態・関係・性質や比較などを表わす意味がある。

1. He **is** passionate, but she **is** cool. (彼は情熱的だが、彼女は冷静だ)
2. California **is** almost as large as Japan.
(カリフォルニアの面積は日本の面積とほぼ同じである)
3. Yesterday his house **was** on fire. (昨日彼の家が燃えていた)
4. High technology **is** necessary in various fields.
(先端技術はいろいろな分野で必要である)

- ヒント**
1. 彼は情熱的な性質だが、彼女は冷静な性質だ。二人の性質の相違を示す。
Be + 形容詞で人の性質を表す。
 2. California と Japan との面積の比較である。2つの国の面積を同等比較する場合、as large as を用いるだけでよい。あえて The area of California とする必要はない。
 3. be on fire 〈慣用語〉「燃えている、火事である」という状態の過去時制で、「燃えていた」「火事があった」となる。
 4. 我々が必要としている意味なので We need high technology in various fields とすることもできる。

D 国籍・身分・職業を表す

1. I **am** Japanese. (私は日本人です)
2. They **are** American. (彼らはアメリカ人です)
3. She **is** an African-American. (彼女はアフリカ系アメリカ人だ)
4. He **is** a teacher of English. (彼は英語の教師です)
5. He **is** a Diet member. (彼は国会議員です。)

- ヒント**
1. 2. Be + 形容詞で国籍を表す。a Japanese としない。
 3. 多民族国家のアメリカでは a Japanese-American (日系アメリカ人) のようにいう。American (アメリカ人) はここでは名詞。a Japanese American としてハイフンがなくてもよい。
 4. 5. 職業・身分は名詞で表す。

EXERCISES

I 日本語に最も適した英語を選び、その記号に○を付けなさい。

1. a. 加藤さんはご在宅ですか。

Is Kato (A. in home B. at home C. at house)?

b. すみません。今不在です。

I'm sorry, but he (A. is out B. is absent C. stay outside).

2. 今日は雨だ。

(A. Today is rain. B. It rains today. C. It is rainy today.)

II 日本語に合うように () の中に 1 語入れなさい。

1. このパソコンは私のですが、あれは彼女のです。

This PC() (), but that one is().

2. 天井のエアコンが今作動していません。

The air-conditioner() the ceiling() () working.

3. そのレストランは通りの角にあります。

That restaurant is() () ().

4. 夜にはその街路は殆ど人通りがない。

The street() almost() () night.

5. こうやってクッキーを作るのです。

() () () we make cookies.

III 日本文に合うように下線に 3 語入れなさい。

1. 京都に来たのはこれが初めてです。

This is my _____ Kyoto.

2. パックにはミルクがすこし残っている。

There is _____ left in the carton.

3. 彼女は日系アメリカ人ですよ。

She is _____, isn't she?

4. このハサミは良く切れる。

_____ very well.

5. 彼らは君の友達ですよ。

They are your _____, _____?

IV 二文の意味が同じになるように () の中に 1 語入れなさい。

1. 1 週間は 7 日あります。

A week has seven days.

= () () seven days in a week.

2. この本は私ではなく彼のです。

This is not my book. It is his.

= This book () () mine () his.

3. この薬は風邪に効きます。

This medicine is good for a cold.

= This medicine () () against a cold.

4. 昨日関東地方に大きな地震がありました。

Yesterday a big earthquake happened in the Kanto region.

= () () a big earthquake in the Kanto region yesterday.

5. この世に欠点のない人はいません。

There is nobody in the world without any faults.

= There is nobody in the world who () () () faults.

= There is nobody in the world who () ().

V 次の文を英訳しなさい。

1. 彼女はとても素晴らしい英語の使い手です。

2. これをあなたに差し上げます。

→これはあなたのためにある。

3. 私は彼らがアメリカから日本へ来るのを楽しみにしています。

be looking forward to ~ ing

4. 彼の話にはうそがあるようだ。

There seems to be

5. そのアパートには 20 世帯住んでいます。

There are

6. 帰省ラッシュの博多行きの新幹線はとても混んだために、途中まで立ち続け
でした。

休暇で故郷に帰る大変多くの人々

7. 「習慣は第二の天性」とよく言われるが、実際その通りであると思う。
一度悪い習慣が身につくと、そこから抜け出すのは容易ではない。

Habit is second nature.